

令和7年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名： 始良・伊佐地域振興局農林水産部農政普及課

課題名③	地域の特性を生かした園芸産地づくり(有機農業)(始良)					
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	6	1		①農家ごとに抱えている課題や興味があることが違うため全員が必要となる課題は難しい。	個別の課題については、巡回指導などで生産者と協議して、改善への支援をしております。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	5	2			
活動体制・ 活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	6	1			
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	5	2			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	6	1			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	1	6			
活動の 波及性と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	2	5			
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	2	5			
全体的な意見・提言		①慣行農家が有機も一部やってみたくなる様な取り組みや働きかけも必要。 ②どのジャンルでも課題である新規就農者の増を目指すことですが、やりたくてもどこを訪ねればよいかわからない人も多いようです。お茶も有機栽培が増えています。今後も見所がある分野ですので、私も支援していきます。 ③鹿児島県の有機農業を代表する拠点として頑張ってください。 ④販売、流通前支援がなされていてよかったと思う。 ⑤事前資料のSNSを通じて配布することは有効と思われる。一方で質疑や簡単な情報交換等できるとさらに有効と思われる。 ⑦有機関係内で色々されていることを知った。新規参入者の定着は全体でも言える難しい課題だと思うが、全体的に必要なことなのでいろいろ工夫していきたい。一般の農家にも有機の知識を波及することが有機を盛り上げるきっかけになるのではないかなと思う。				

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名： 始良・伊佐地域振興局農林水産部農政普及課

課題名③	地域の特性を生かした園芸産地づくり(有機農業)(始良)	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	4	2		③生産者、地域の課題であるのかが分からない	水田を活用した根深ネギの産地育成を目標としており、排水対策の実施が、コストや改善効果等の課題が確認できたため、根深ネギの生育を確保できる水田は場を選定して、モデル農家を育成する計画としています。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	3	3		③よく分からない	
活動体制・ 活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	3	3			
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	1	5			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	2			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか		6		①野菜については付加価値がなかなかついておらず、価格も同じであり、収入につながっていないと感じます。 ③産地の育成、成長は農家が学び成長している。	有機栽培による付加価値づくりだけでなく、単収益向上につながるような販売等へ重点化した普及活動を実施していきます。
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか		6			
活動の 波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	1	5			
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか		5			



地域の特性を活かした 園芸産地づくり

(有機農業)

1 有機農業が置かれている現状と背景

鹿児島県の有機農業の推進方策

平成18・12 「有機農業の推進に関する法律」が成立・施行

平成19・4 有機農業担当の**広域普及指導員**を配置

※始良地域を重点地域して活動中

平成20・8 「鹿児島県有機農業推進計画」の策定(改訂:H27・3, R3・3)

鹿児島県有機農業推進計画(R3.3改訂)の主な内容

有機農業の普及目標	令和元年	目標年度: R13年度(10年後)
県の有機栽培面積	999ha	2,000ha
有機農産物よく購入する消費者の割合	10%	25%
有機JAS認証取得面積割合	80%	90%

(令和7年3月 「かごしま食と農の県民条例」に「環境への負荷の低減に関する施策」追加)

有機農業の重要性が広く認識されつつある

1 有機農業が置かれている現状と背景

鹿児島県の有機農業の状況

1 農家戸数(戸)

区分	H27	R3	R6
茶	116	178	222
野菜	195	175	167
水稻・雑穀	69	60	60
果樹	18	20	34
計	395	433	503

2 栽培面積(ha)

区分	H27	R3	R6
茶	381	699	1,030
野菜	272	334	235
水稻・雑穀	134	133	163
果樹	19	24	31
計	806	1,190	1,459

資料: 県経営技術課調べ

- 1 農家戸数: 茶(増加) > 野菜(減少) > 水稻(微減) > 果樹(増加)
- 2 栽培面積: 茶(増加) > 野菜(減少) > 水稻(増加) > 果樹(増加)
- 3 茶が多く、増加傾向にある。
野菜は、減少。(高齢化等による減少を新規者で補充できていない)

今後の担い手確保が課題となっている

1 有機農業が置かれている現状と背景

有機農業に取り組む新規就農者の推移(直近11年)

始良・伊佐地域にける最近11年間の有機農業新規就農者の状況(人)

市町名	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	計
霧島市	3 (3)	2 (2)	1 (1)	2 (1)	—	—	1 (1)	1 (1)	1 (1)	—	—	11(10)
伊佐市	1 (1)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	—	—	—	—	1 (1)	—	—	6(5)
始良市	1 (1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1(1)
湧水町	1 (1)	1 (1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2(2)
計	6 (6)	6 (6)	5 (5)	2 (2)	—	—	1 (1)	1 (1)	2 (2)	—	—	20(18)

資料: 農政普及課調べ ()は新規参入者

平成26年~29年の4年間で有機農業への新規就農者は19人いたが、それ以降の7年間では4人と少ない状況が続いている。

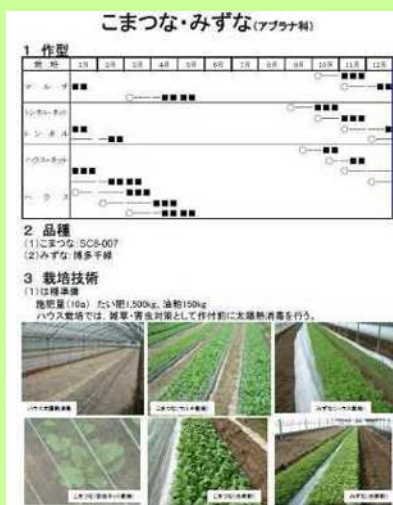
就農者数20人のうち18人が新規参入者となっている。

2 支援内容とその課題

支援内容	課題	関係協議会・団体	支援対象
①生産・技術 事例収集 技術実証 技術普及	・収量と品質が不安定になりやすい ・病虫害、雑草管理が困難	園芸振興協議会 農政推進協議会	始良有機部会 蒲生町有機野菜部会 霧島有機社中
②販売・流通 販路拡大 PR 消費動向調査	・安定した販売先の確保が困難 ・消費者の有機農産物の認知度が低い	始良市有機農業振興協議会 (振興局事業)	始良有機部会 蒲生町有機野菜部会 霧島有機社中
③担い手確保 就農前支援 就農直後支援 定着支援	・新規参入者に対する栽培技術・経営面での支援が必要	始良市 霧島市 鹿児島県有機農業振興協議会	鹿児島有機農業技術支援センター 霧島有機社中

2 ① 生産・技術の支援 (事例収集)

技術情報や実証成果を整理して農家等に配布



有機栽培事例



実証ほ成績集
(H22)



有機百培として編纂
(H26)

新規就農者の基本的な栽培指導書として活用

2 ① 生産・技術の支援（技術実証・技術普及）

・定着してきた技術

<太陽熱消毒による除草>



管内では、ほぼ100%普及

<IPMの導入>



畝間にムギ類を植え、天敵利用

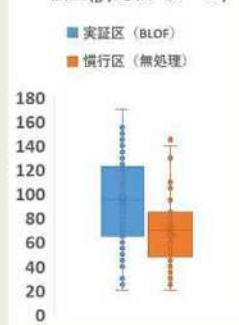
・新たな技術課題への取り組み

気候変動（高温・豪雨）による栽培困難への対策

<微生物利用による土づくり> 陽熱養生処理



一個重(g)比較 (n=45)



<排水対策> カットドレーン類似機利用

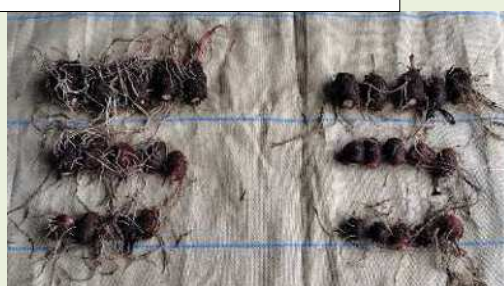


表 子芋の重さ

排水対策	あり (実証)	なし (慣行)
一個重(g)	68.5	53.5

園芸振興協議会の実績としてまとめ普及

2 ① 生産・技術の支援（ほ場検討・先進事例調査）

始良有機部会・蒲生有機部会・霧島有機社中

これまでも、
これからも、
継続していく



2② 販売・流通の支援（販路拡大）

地産地消と販路拡大（始良市でのモデル活動：H27）

始良市有機農業推進協議会の活動で、地産地消による販路拡大を実施



イベントに参加している「かこしま地産地消推進店」（始良・伊佐地域）				
店名	電話番号	住所	ジャンル	営業時間
おいら 始良市	05-7701	始良445-2	ランチ	
おいら 始良市	05-7701	始良445-2	ランチ	
cafe boom boom	090-9799-0478	始良511-15	ランチ	
カフェとギャラリー PEGORA	05-6925	始良511-15	ランチ	
カフェ 始良市	07-1306	始良511-15	ランチ	
カフェ 始良市	06-0424	始良511-15	ランチ	
カフェ 始良市	06-3003	始良511-15	ランチ	
カフェ 始良市	06-3361	始良511-15	ランチ	
カフェ 始良市	07-0990	始良511-15	ランチ	
カフェ 始良市	07-0057	始良511-15	ランチ	
カフェ 始良市	06-8547	始良511-15	ランチ	
カフェ 始良市	06-0079	始良511-15	ランチ	
カフェ 始良市	06-3692	始良511-15	ランチ	
カフェ 始良市	06-2115	始良511-15	ランチ	
イタリアンレストラン シンパティ	05-7220	始良511-15	イタリアン	
イタリアンレストラン シンパティ	05-7220	始良511-15	イタリアン	
イタリアンレストラン シンパティ	05-7220	始良511-15	イタリアン	
イタリアンレストラン シンパティ	05-7220	始良511-15	イタリアン	
イタリアンレストラン シンパティ	05-7220	始良511-15	イタリアン	
イタリアンレストラン シンパティ	05-7220	始良511-15	イタリアン	
イタリアンレストラン シンパティ	05-7220	始良511-15	イタリアン	
イタリアンレストラン シンパティ	05-7220	始良511-15	イタリアン	
イタリアンレストラン シンパティ	05-7220	始良511-15	イタリアン	

- ・始良市で有機野菜を使う地産地消推進店が増加！
8店舗（H25） → 27店舗（H27）
- ・新たな販路拡大の可能性が広がった！

2② 販売・流通の支援（販路拡大）

販路拡大（霧島有機社中でのモデル活動：H30）

霧島有機社中の活動で、「畑巡りツアー」による販路拡大を実施

- 有機野菜畑巡りバスツアー
栽培している畑と有機農産物を見てもらう！
- 有機野菜等を使った昼食会
自分達が栽培した有機農産物を食べてもらう！
- 有機農家との意見交換会
有機農家を知ってもらう！

- 販路の拡大に自信（自分たちにもできる！）
- 今後の生産計画に反映（販売拡大！）
- ほ場を見学されて評価 ⇒ やる気向上！

商談成立：4件
（大手飲食店等）



2② 販売・流通の支援（販路拡大）

販路拡大（霧島有機社中でのモデル活動：R5～7）

地域振興局事業を活用し、有機農産物の販路拡大を実施

- **有機野菜BOXの販売**
有機農産物の新たな販路拡大
- **有機農産物のPR**
有機野菜畑巡りバスツアーと商談会
有機農産物のPR資料作成
有機野菜等を使った昼食会
イベントへの参加
- **消費動向調査**
有機農産物販売状況（静岡・京都・福岡）



野菜BOX

活動を進める際に意識したポイント

- 事業終了後の自立運営を目指す
- プロジェクトチームの編成とSNS・WEB会議の利用
- 民間事業者の力を活用し、普及活動はコーディネートに専念

2② 販売・流通の支援（販路拡大）

- **有機野菜BOXの販売**



ECサイトで販売

野菜BOXの商品化と販売

域内流通（R6）

定期購入：12件

域外流通（R7）

EC販売

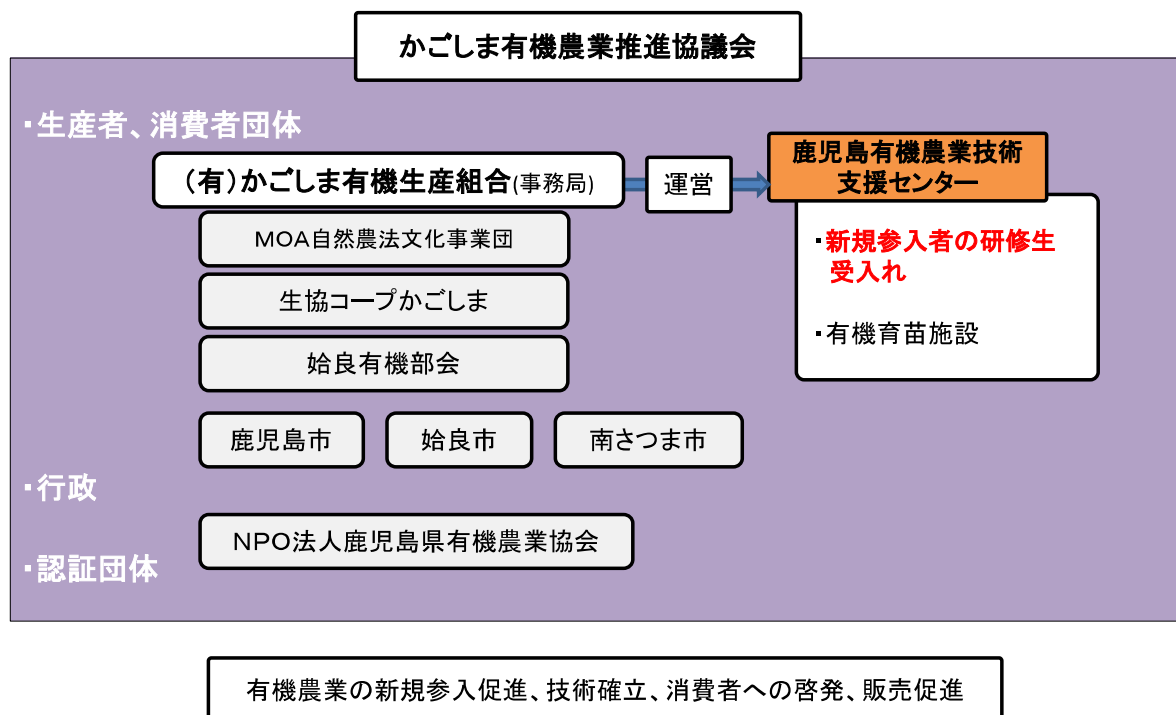
12月：26件
1月：116件
2月：52件（予約）

○販路の拡大に手ごたえ
○今後の生産計画に反映

※販売方法については民間事業者
と協議しながら実施

2 ③ 担い手確保の支援（就農前支援）

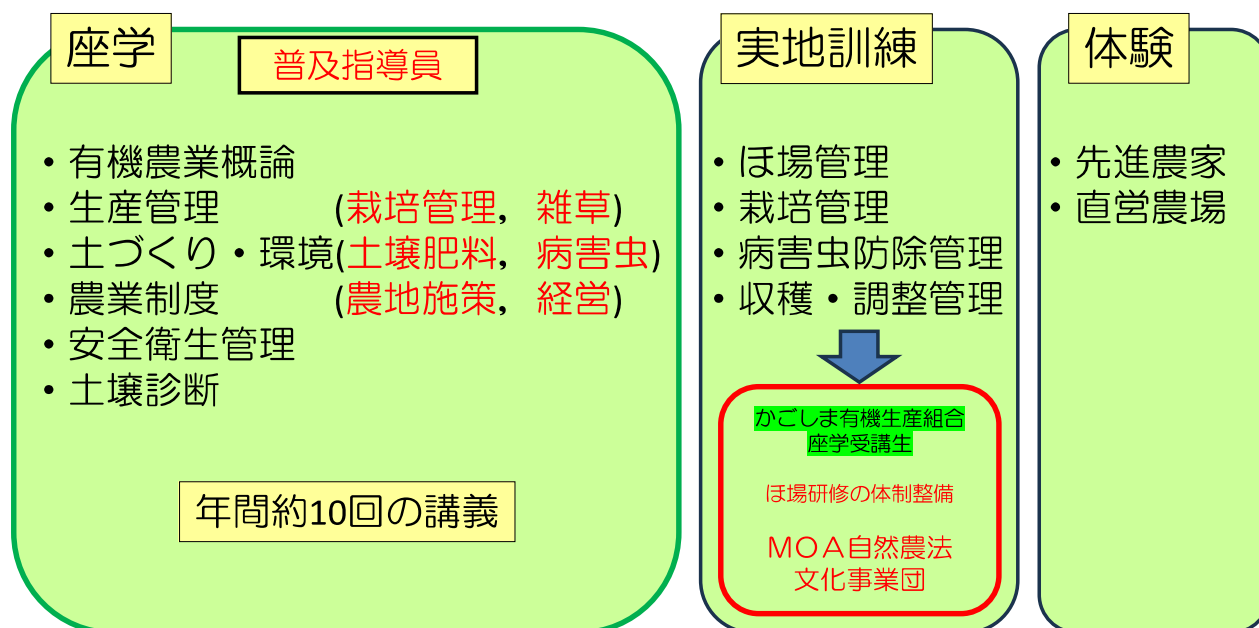
鹿児島県の有機農業ネットワーク体制



2 ③ 担い手確保の支援（就農前支援）

鹿児島有機農業技術支援センターへの支援

研修生・訓練生への研修



技術支援センターの「実地訓練」機能をMOA事業団に役割分担してもらう計画

2 ③ 担い手確保の支援（就農前支援）



講義資料



座学の様子



先輩農業者の訪問

3 活動成果のまとめ

支援内容	活動成果
①生産・技術 事例収集 技術実証 技術普及	- 栽培事例集「有機百培」の編纂と活用 - 実証結果の普及 - 太陽熱消毒による除草 - IPM(総合的病害虫管理)による病害虫抑制
②販売・流通 販路拡大 PR 消費動向調査	『野菜BOX』の商品化 - 販路の拡大 - 定期購入 12件 - EC販売 約200件 自律的運営で継続
③担い手確保 就農前支援 就農直後支援 定着支援	- 年間約10回の講義 - 事前にSNSを通じて資料の配布 - 研修生と先輩農業者との意見交換の設定

4 残された課題と今後の取り組み

有機農業の推進

- 有機農業の作付け面積拡大 → 現在も十分に増加していない
- 主な要因
 - ・既存農家の作付け面積拡大が進んでいない
 - ・新規就農者の増加が進んでいない

支援内容	残された課題	今後の取り組み
生産・技術 気候変動・資材費の高騰により収益性の低下 再現性の高い技術の確立		かごしま有機生産組合 プロジェクトチーム 実証ほ（気候変動対策）
担い手確保 技術習得のための実地訓練ができていない ほ場研修の体制整備		かごしま有機生産組合 座学受講生 ほ場研修の体制整備 (MOA自然農法文化事業団)

ご清聴ありがとうございました

